

## 令和6年度農作物病虫害発生予察注意報第2号

令和6年7月17日  
山口県病虫害防除所

病虫害名 水稻の斑点米カメムシ類  
(アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ等)

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 出穂期以降
- 3 発生程度 多

### 4 注意報発令の根拠

- (1) 県内3か所の予察灯における6月10日～7月9日の斑点米カメムシ類5種の誘殺数は5,972頭(平年699頭)で、過去10年間で最も多かった(図、表)。
- (2) 下関地方気象台発表の1か月予報(7月11日発表)では、8月の気温は高く、斑点米カメムシ類の活動に好適である。

### 5 防除方法

- (1) 薬剤防除時期(液剤)  
ア) 穂揃期と穂揃期7日後  
イ) イネカメムシの発生が多い地域では、出穂期と出穂期7日後
- (2) 粒剤で防除を行う場合は、液剤より3～4日早く散布する。
- (3) 防除後、ほ場での発生状況を確認し、カメムシ類の発生が認められる場合は、さらに7日後の追加防除を実施する。
- (4) 防除薬剤は、山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。  
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

### 6 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂期にイネカメムシによる集中的な吸汁を受けると、不稔穂が発生し収量に影響を与える恐れがあるため、本種の発生が多い地域では、周囲より出穂が早いほ場、または遅いほ場は特に注意する。
- (2) 水稻出穂後の草刈りは、斑点米カメムシ類の水稻への移動を促し、加害を助長するので避ける。
- (3) 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて防除を実施する。
- (4) 斑点米カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- (5) 粒剤は、クモヘリカメムシ、イネカメムシ等の大型カメムシに対しては効果が劣るため、防除後の効果をよく確認する。
- (6) 防除にあたっては、適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守、ミツバチ被害軽減対策など安全で効果的な防除に努める。

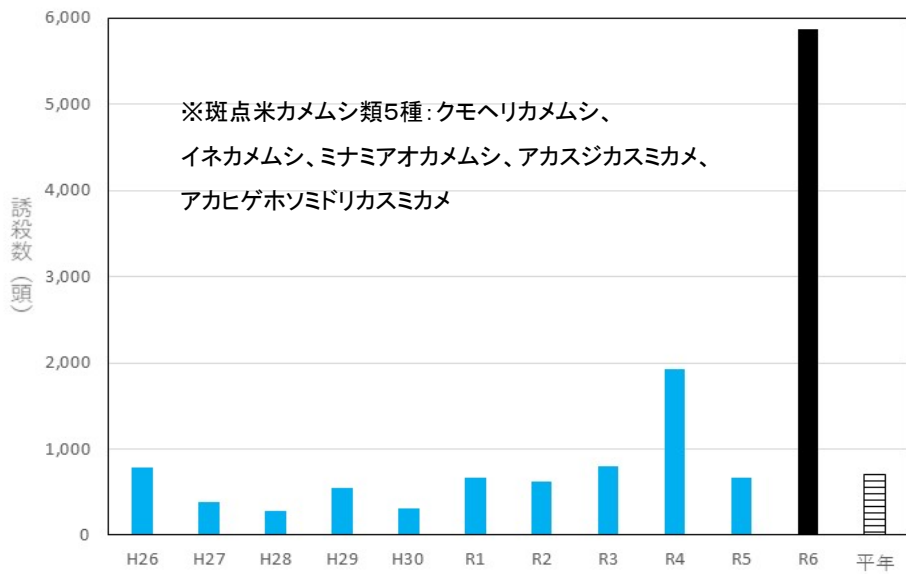


図 予察灯における斑点米カメムシ類5種の年次別誘殺数

(6月10日～7月9日、県内3か所合計)

表 予察灯における斑点米カメムシ類主要種の誘殺数(6月10日～7月9日、県内3か所合計)

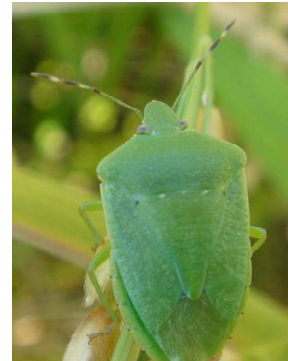
| 年度   | 大型種      |        |           | 小型種       |                | 合計         |
|------|----------|--------|-----------|-----------|----------------|------------|
|      | クモヘリカメムシ | イネカメムシ | ミナミアオカメムシ | アカスジカスミカメ | アカヒゲホソミドリカスミカメ |            |
| 令和6年 | 38       | 26     | 74        | 5262      | 572            | 5972       |
| 平年   | 10       | 1      | 4         | 551       | 133            | 699 (単位：頭) |



クモヘリカメムシ成虫  
(体長 15～17mm 程度)



イネカメムシ成虫  
(体長 16mm 程度)



ミナミアオカメムシ成虫  
(体長 12～16mm 程度)



アカスジカスミカメ成虫  
(体長 5～6mm 程度)



アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫  
(体長 5～6mm 程度)

(参考) 用語解説

出穂期とは、出穂すると思われる全茎数の40～50%が出穂した日  
穂揃期とは、出穂すると思われる全茎数の80～90%が出穂した日